

第二回「最小限の家作り」研究会報告 8月28日 13名参加

第2回では最小限の家の、基本的な考え方を中心に話し合いました。出来れば趣意書のような形で、まとめて行きたいと思いますが、今回は途中経過。

報告事項

- 1、 掛川の学園花の村の取り組む、「鞍馬の里」の見学会 10名で行ってきました。「鞍馬の里」の法対応は参考になる。地域と良い関係で進める必要がある。地域での開き方。農の会の存在は重要になる。大勢が暮らすことは、ストレスが大きくなる恐れがある。
- 2、 8月28日(日)小田原市総合防災訓練の時、災害時の応急仮設住宅の展示を行います。この住宅は、4畳半平屋で、神奈川県の間伐材で出来ており、間伐材の有効利用の一貫として林業再生フォーラムが去年の新潟中越地震の時に設置したものです。現在、愛・地球博で展示中。
- 3、 杉本 洋文東海大学建築科教授 相田酒造の蔵の再建、竹を使った家の提案。愛知博では金賞受賞。小田原の地域問題に協力されていて、笹村養鶏場にも来て頂いたことがあります。一次産業の応援団。今回の最小限の家作りには大変興味を持ってくださり、次回からは参加下さる事になりました。学生達にも伝えてくれるそうです。基本的なコンセプトの重要性をいわれておりました。
- 4、 特定非営利活動法人自然塾丹沢ドン会専務理事事務局代表 片桐 勤氏 夢工房 今回の計画には編集者的なセンスが、大切な事は前回確認しましたが、あしがら農の会とも、親戚関係ともいえる里山の保全活動で知られている、丹沢ドン会の事務局をされていて、出版にも携わっている片桐氏に参加のお願いを致しました。行政との関わりや、この計画が他地域でも有効になるように、開かれた形で進める必要があるとの意見を頂く。

前回提案した基本的な考え方 さらに精査して行きました。

- 1、 質素な暮らしを表現した家。 農の会的暮らしの方向を検討。新たな豊かな暮らし。
- 2、 自然に馴染んだ家。 美しく風景を形成するような、家でありたい。
- 3、 循環する合理的な家。 利用可能時間を決める必要がある。10年ぐらいか。100年か。
- 4、 必要最小限の家。 四畳半に1人。1間半のキューブを基本にしたら。高床式。テラス的機能部分。屋根の意味。美しさは重要。床下収納による断熱。安心して眠れる家、これが案外難しい。センターハウスのような機能を、何処かにも受ける必要がある。
- 5、 自然エネルギーの家。 次回の課題。
- 6、 地域で入手できる材料の家。 竹は注目。ガラス等どう考えるか。

具体的に言えば、

- 1、 建築基準法に抵触しない家。 行政を交えた組織の立ち上げを、検討にして行く必要がある。

- 2、 トレイラーハウスのような移動可能な家。
- 3、 農地に置ける家。 農地周辺部か。
- 4、 百万円以内で出来る家。 土地代を別にすれば、可能ではないか。
- 5、 1ヶ月で自作できる家。 事前の材料の加工があれば可能。プロの関わり範囲の検討が必要。
- 6、 災害に強い家。 柔構造で考える事も出来る。